

冬の寒さも和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じられる季節になって参りました。

本日は私たち高校三年 172 名のために、このような素晴らしい式典を催していただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご出席いただきましたご来賓の皆様、先生方、並びに学校関係者の皆様には、卒業生一同を代表し心から御礼申し上げます。

2018年4月。私たちは新しいセーラー服に袖を通し、これから始まる神奈川学園での生活への期待と緊張を胸に入学式を迎えました。六年間の長いようで短かった神奈川学園での生活を追想すると、様々な思い出が蘇ってきます。FWや英語研修等の宿泊行事では、実際に体験することで新たな知識を得るとともに視野を広げることが出来ました。球技大会では、競技ごとに分かれチームで作戦を練り、切磋琢磨し合う中で絆が一層深まり、文化祭では、クラス一丸となって展示を作り上げる達成感を味わうことができました。時に助け合い、喜びを分かち合った一つ一つの思い出が宝物となっています。

高校2年の時、私は皆さんの信任を受け、生徒会長を務めさせていただきました。コロナ禍であったこともあり、「今できることをしよう」という思いはありつつも、まだまだ制約の残る環境下で生徒会活動が思うように行いにくい状況でした。苦い思いをする場面もありましたが、友人に励まされたり、執行部の他のメンバーや先生方に助けられたりと、多くの人の支えの中で一年間の任期を務めきることができました。

卒業生を代表して、お世話になった皆様に感謝の言葉を贈らせていただきます。在校生の皆さん。部活や委員会では私たちを支えてくださり、ありがとうございました。共に過ごした日々は私たちにとってかけがえのない思い出となっています。皆さん、これからの神奈川学園での時間を、一日一日を大切に過ごしてください。時に、困難にぶつかることもあると思います。そんな時に些細なことだと感じていた日々の思い出が心の支えとなります。友人や先生方との対話の中で進路の糸口を掴み、自分の進みたい道が見つかることもあると思います。

私たちを教導いてくださった先生方。先生方のご指導のおかげで、自分の進むべき道を自分で決め、一步を踏み出すことが出来ました。先生方がしてくださった授業やかけてくださった言葉を私たちは絶対に忘れません。実りのある学校生活のためにご尽力いただいた教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。そして私たちを支え続けてくれた家族へ。いつも私たちのために働いてくれてありがとう。困ったときはいつも話を聞き、励ましてくれた。一番の理解者でいてくれてありがとう。

これからも温かく見守っててください。

今、私たちは高校卒業を迎え、社会への大きな一步を踏み出すこととなりました。現在、国家同士の対立、あるいは民族間の対立が深まって生じた、終結の見通しが立たない問題が起きています。日本や世界で次々と起きる困難を目の当たりにし、直接的な解決や支援の手段を持つことは難しいと感じてしまいがちです。そこで私たち個人は何ができるのかを考える必要があります。

何より大切なことは現地で起こっていることを知り、発信することです。私たちは、このことを神奈川学園で学びました。「知る」とは、正しく事実を知ることが指していると私は考えます。人工知能が凄まじい速度で発達している現在だからこそ、ネットやSNS上にある偽りの情報に惑わされないために、一つの価値観にとらわれるのではなく、柔軟な視点を持つことが大切だと思います。

友人や先生方との会話、教室中に響いていた笑い声、当たり前のように思っていた毎日が、終わりを迎えようとしています。今までのように会えなくなることに寂しさを感じますが、私たちはそれぞれの道へと歩みを進めていかなければなりません。これからは新しい環境の中で、神奈川学園で培った経験を糧とし、夢に向かって日々精進して参ります。

私たちは、卒業後も互いをいたわり、共に成長していく仲間でありたいと願っています。

最後になりますが、本日もご出席くださった皆様のご多幸と神奈川学園の益々のご発展を心より祈念して、私の答辞と致します。